

平成 25 年 6 月 18 日
アンジェス MG 株式会社

MeDICI プロジェクト（国立循環器病研究センター）の開発支援シーズに採択 —血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材—

当社が、森下仁丹株式会社（本社：大阪市中央区／代表取締役社長：駒村純一、以下「森下仁丹」）と共同で進めている「血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材」の開発が、MeDICI プロジェクト（Medical Device Innovation Circumstances Improvement Project：医療機器イノベーション環境整備プロジェクト）の開発支援シーズとして採択されました。今回の開発プロジェクトは、国立循環器研究センターの北風 政史 臨床研究部部長が研究統括を行い、大阪大学大学院医学系研究科の森下竜一教授が研究立案・遂行いたします。

国立循環器病研究センターは、厚生労働省が進める「早期・探索的臨床試験拠点整備事業（平成 23 年度開始）」において全国 5 拠点のひとつとして選定され、大阪大学とともに脳・心血管分野の拠点となるとともに、選定された 5 施設のうち唯一医療機器の開発を手がけています。本事業では、「国内の医療機器開発環境の改革」を目指す MeDICI プロジェクトを進めています。

今回の治療対象疾患である血流不全を伴う皮膚潰瘍は、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、糖尿病等を起因として発生する虚血性の潰瘍です。このような潰瘍では易感染性（免疫の機能が低下し病原菌に感染しやすい状態）になることがあり、その制御が難しいことが問題となっています。また、局所の感染を防ぐ治療薬は、菌の増殖抑制だけでなく、傷の修復に必要な組織再生能にも影響を与えてしまうため、創傷治癒に悪影響がなく感染も防御できる新しいタイプの抗菌性創傷被覆・保護材の開発が求められています。

こうした背景のもと、当社と大阪大学が見出した「傷の修復を妨害せずに抗菌活性を持つ機能性ペプチド」と森下仁丹が開発中の高分子を用いた「創傷治療用の高機能シートの製造技術」を組み合わせた「血流不全を伴う皮膚潰瘍の感染を防ぐ抗菌性創傷被覆・保護材」の開発を進めております。

なお、本研究の一部は、経済産業省平成 22 年度「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」実証事業の助成^{※1}を受け実施しております。

※1 経済産業省平成 22 年度「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業」実証事業の助成に関する詳細については、平成 23 年 9 月 1 日付の開示資料をご参照ください。

以上